

鳥飼 将雅

法学研究科・准教授

【研究】

2025 年 5 月に『ロシア政治』(中公新書)が刊行された。ソ連末期から露宇戦争開戦までのロシアの政治状況について、6 つのトピックを軸に解説した。各紙に書評が掲載され、一般向けの書物として概ね好意的に受け止められている。ロシアの知事と市長の関係を分析した論文が、『スラヴ研究』に採択された。この論文は 2026 年度中に刊行予定である。それ以外に、ウクライナの地方議会選挙に関する論文、ロシアの政党に関する論文、ロシアの市長の逮捕パターンに関する論文を英語雑誌に投稿し、修正のち再投稿の誘いを受けた。2026 年度中の採択を目指す。

【教育】

春学期の「比較政治学」の演習は、受講者なしのため不開講となった。「定性的研究の理論と方法」では、高等司法研究科の学生が積極的に参加し、多様な観点からの意見が出され、毎回活発な議論が展開された。

秋学期の「比較政治」の講義では、講義資料をアップデートするとともに、CLE を通じてコメントに丁寧に回答した。授業アンケートでもコメントへの対応への評価が高かった。「法政導入演習」では、アカデミックライティングを扱った。最終的に受講者全員がレポートを書き上げ、ライティングの基礎を身につけることができたように思う。

【管理運営】

法学部教務委員会の一員として、毎月の委員会出席やオープンキャンパスの運営などに従事した。時間割担当として、教務係の担当の方と協力しつつ、講義棟の大規模改修により困難が生じた講義室割り当てに対応した。

全学入試広報小委員会の委員として会議に出席した。ハラスメント部局相談員、国際交流室員・研究推進室員としても活動に従事した。

【社会貢献】

日本国際問題研究所のロシア研究会委員として、研究会に出席し、レポートを執筆した。委員としての任期の最終年度であったため、特にレポートについては、開戦後のロシア内政の変化について、メディア報道や統計情報を用いて詳しく解説した。

2026 年 2 月には、兵庫県日本ロシア協会でロシアの政治体制について一般向けの講演を行なった。